令和８年度太田市指定管理者候補者審査委員会　議事録

○ 日　　時　　令和８年１０月９日（金）午後１時３０分から午後５時
○ 場　　所　　太田市役所１１階１１Ａ会議室
○ 審査事項
(1)　太田市高度救急医療支援センター《非公募》
(2)　太田市沢野小放課後児童クラブ《公募》
(3)　太田市藪塚本町放課後児童クラブ《公募》
(4)　太田市宝泉小第２放課後児童クラブ《公募》
(5)　道の駅おおた交流センター《公募》 ※(5)、(6)、(7) は申請者３名
(6)　道の駅おおた交流センター《公募》
(7)　道の駅おおた交流センター《公募》

○ 出 席 者
委員長　　大澤 美和子
委　員　　竹沢 悦男、茂木 真和、亀井 貴文、大関 沙代子、中村 友精、富田 智幸
事務局　　尾島副部長、久保田課長、田中舘係長、阿久津係長代理、篠木主事
所管課
(1)　健康医療部健康づくり課
　　小林課長、塚原係長、落合主事
(2)　福祉こども部児童施設課
　　小池参事、石塚課長補佐、石塚主事、町田主事
(3)　(2)に同じ
(4)　(2)に同じ
(5)　農政部農業政策課
　　川島副部長、茂木課長、山口係長代理
(6)　(5)に同じ
(7)　(5)に同じ
公募の申請者
(2)　太田市沢野小放課後児童クラブ
　　・特定非営利活動法人さくらんぼクラブ
(3)　太田市藪塚本町放課後児童クラブ
　　・社会福祉法人 善美会
(4)　太田市宝泉小第２放課後児童クラブ
　　・NPO 法人 Childcare support ぐんま
(5)　道の駅おおた交流センター※(5)(6)(7)は同一施設に申請者３名
　　・株式会社ステーシア
(6)　道の駅おおた交流センター
　　・特定非営利活動法人 Way To The Dream
(7)　道の駅おおた交流センター
　　・株式会社イースト

１　開会（尾島事務局長）

ただいまから、令和８年度太田市指定管理者候補者審査委員会を開会させていただきます。本日は、大変お忙しいところご出席いただきありがとうございます。本年度より事務局長を務めさせていただきます総務部副部長の尾島と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議につきましては、７名の委員に出席いただいておりますので、太田市指定管理者候補者審査委員会規則第３条第２項により、過半数の出席により会議が適正に成立していることを、あらかじめご報告申し上げます。

２　挨拶（大澤委員長）

本日はお忙しいところお集まりいただき、大変ありがとうございます。

指定管理者制度は、多様化する住民ニーズに効果的・効率的に対応し、住民サービスの向上と経費の削減を図ることを目的とした制度でございます。本市においてもご存知のとおり公の施設で活用されております。制度が始まってずいぶん経ちますがその都度求められることが変わってきている所がございますが時代に合わせた制度となっていければというのが私見でございますがどうぞよろしくお願いいたします。本日は数としては多い年に比べれば少なめですがそれぞれ重要な案件と考えております。忌憚のないご意見を出していただき良い審査会にしていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

３　自己紹介

４　本日の審査委員会について（久保田課長）

５　審査事項（議長：大澤委員長）

（1）太田市高度救急医療支援センター

《健康づくり課による説明》

【質疑】

Ｑ１：修繕計画は支出を伴うものであり、令和８年度以降も収支の計画が厳しい中で財務の改善や修繕を実施する上での現状分析と課題について。

Ａ１：厳しい状況が見込まれるが病院全体の存続を第一としてあるべき姿の検討を多方面から進めていきたいと聞いている。

Ｑ２：指定管理の金額は、救急センターや ICU の部分の収入ということか。

Ａ２：面積で区分所有。面積按分にかける数字ではない。

Ｑ３：他の病院でも病床があればあるほど苦しいと思うが、経営状況の課題について、太田市として問題への取り組み方や盛り立てていくための策を考えていただきたい。

Ａ３：運営委員会の中で委員さんからの話を踏まえて提言します。

Ｑ４：全国的に見ても病院経営は厳しい経営が続いており、医師不足が重要だが太田市は問題ないか。

Ａ４：高度救急に限定すれば十分ではないが、確保されている。

Ｑ５：施設の利用者数が微減しているが、適正数などはあるか。

Ａ５：人数についての適正は把握していないが、診療報酬に基づいて収入がある。人数が多い方がいいという考えはあるが、診療報酬以外の収入がないと成り立たない。物価高でのコストや人件費が高くなっているなどの影響もあり、多い方が良いというわけではないが、一定数は必要。
Ｑ６：応需率はどのくらいか。
Ａ６：98.8%。毎年度高い数字を報告しており、一昨年度は 98.1%で 100%に近い。
Ｑ７：類似施設に比べ、高い部類か。
Ａ７：太田記念病院は断らない診療を目指していると聞いているため高い。
【審査】
・全員賛成により、SUBARU 健康保険組合太田記念病院を指定管理者候補者に選定することを適当と認める。

《(2)～(4)　福祉こども部児童施設課による説明》
【質疑】
Ｑ１：利用料の上限９千円は情勢に合わせているということか。今後変更になる可能性はあるか。またそれはどんな手順か。
Ａ１：各クラブで差が出てしまっていたため令和４年に上限を設けた。今後は社会状況に応じて変更することは可能。
Ｑ２：上限９千円は決まっているが、下は任意か。
Ａ２：はい。
Ｑ３：上限額のことを失念していて、今後の事業に基づき、利用料金を上げていくことがサービス向上につながると考え、利用料金値上げの方針を提示してしまったクラブがあったということか。
Ａ３：早出しをしてしまったという意味になる。
Ｑ４：基本で守らなければならない法令遵守の部分から外れたクラブに対する事務局の指導はどのように行っているか。
Ａ４：口頭による行政指導を行っている。また来月以降から監査のようなものを担当課で行い、話し合いをしていこうという考え。
Ｑ５：支出超過のクラブがある。前年度繰越額がマイナスだが、どう考えているか。
Ａ５：マイナスが出てきていることに関しては、今後計画している監査の中で支払い方法や計画について担当者を交え話し合いをしていこうと考えている。
Ｑ６：担当課としてはいろいろあった中でも保護者との関係性や運営のあり方については何とかできているという認識か。
Ａ６：話し合いの中である程度は理解していただいていると考えており、様子を見ている。
Ｑ７：利用者が増加傾向のクラブは職員の目が行き届くのか。利用は増えているが職員の人数に変更がなく大変だと思うが。
Ａ７：人数の増加に関しては担当課でも認識しており、行政の方でも沢野地区の再編に取り組んでいる途中であり、対策していくことで調整中。

⑵　太田市沢野小放課後児童クラブ（公募施設）

《特定非営利活動法人さくらんぼクラブによる説明》

【質疑】

Ｑ１：説明を聞き、きめ細かい配慮をされいると感じたが、今後の課題は。

Ａ１:障害児が多く対応に関する課題がある。子ども一人一人にあった保育を心掛けているが、これまで続いている課題である。

Ｑ２:事前の相談も行わずに保護者の方に影響を及ぼす事案が見られたことなどの報告があるが、事業者としての評価に対する考えは。

Ａ２：保護者にはご心配とご迷惑をおかけしたが、修正をして今は従来通りの受け入れ体制を整えているので改善できたと思っている。

Ｑ３：今は滞りなく事業が進んでいるか。

Ａ３：はい。受け入れも行っている。

Ｑ４：ＳＮＳを活用し、保護者とやり取りしているのか。

Ａ４：していない。

Ｑ５：主に案内発信か。

Ａ５:案内の発信が主だが、どうしても保護者からクラブに直接言えない場合はＳＮＳを使用している。ただ実際に使用したのはコロナ禍のみで、先生に言えないことなどは理事長が直接受けて対応している。

Ｑ６:クラブではなく直接太田市への問い合わせがあったようだが、保護者からの話は受け入れられる環境にあるという認識でよいか。

Ａ６：もちろん。直接所管課に話があった場合には理事長に連絡が来るようになっており、相談の上、対応している。

Ｑ７：地域になくてはならない仕事をやっていただきありがたい。節約し、円滑な運営に努めていただいているが、具体的にどのようなことを検討しているか。

Ａ７：電気料、水道料などがあるが、大きく節約しようとすると負担がかかるため、細かいことで最低限頑張ろうとしている。おやつ代は工夫し、経費を抑えている。

Ｑ８：夜中に働くこともあるようであるが、つらくないか。睡眠時間は確保できているか。

Ａ８:睡眠時間はある。各クラブから毎日交換ノートのような報告書が上がってきて処理に時間がかかる。クラブの開始時間までに間に合わせるためには早起きして行わなければならない。自分の身体としては仕事の一環として慣れてしまっている。

Ｑ９:一人でできる仕事ではないと思うが。もう一人業務をやる方がいれば改善につながるのでは。

Ａ９：業務を教えている人が一人いる。すぐにはできないが、来年１年をかけてじっくり２人でやっていく。

Ｑ１０:バランスを考えて運営された方が良いという印象。いろいろ工夫され苦労も多いと思うが、まずは働く人が元気でいないと子どもにも良い影響がないと思うので頭に入れていただく必要がある。

Ａ１０:若い時からやってきており、年齢も上がってきているので少しずつ生活のリズムややり方もネットなどを活用しながら切り替えていけたらスムーズにできると考えている。

(3)　太田市藪塚本町放課後児童クラブ（公募施設）

《社会福祉法人善美会による説明》

【質疑】

Ｑ１：きめ細かいと感じた。今までの困ったと思う出来事とその解決方法は。

Ａ１：子ども同士のトラブルが多く、職員だけで対応が難しい場合は所長も仲裁に加わることで折り合いをつけた。

Ｑ２：必要に応じて行っている地域や学校との情報共有の頻度や割合、内容は。

Ａ２：学校は校長、副校長、教頭と話をよくしており、学校に行く機会も多く行事のことなど情報共有を行っている。地域は民生委員の方などと地域の情報共有をしている。

Ｑ３：諸規定は整備済みだが、個人情報保護の規定は別途ないようだが、ここ１～２週間のハッキングや個人情報の漏洩などの事故に巻き込まれるともったいないと思う。ひと昔前とは違った時代なので守りをしっかりしていただいた方が良いと思う。

Ａ３：トラブルは、SNS 関連も含め、発生したら担当者だけでなく所長が対応するようにしている。内部の個人情報については規模が小さく、今はハッキング等の被害はないが注意したいと思っている。パソコンの操作なども場所の確保が難しいと感じている。時代的に対応していかなければならないと思っているが難しい。

【意見】

・大きな企業だけでなく、上場企業がハッキングされる原因の一つに取引先や下請けの会社とネット上で色々とつながっていることが挙げられている。パソコン操作環境はヒヤリハットで事故が起きてしまうことがないよう今一度見直された方が良いと思う。

(4)　太田市宝泉小第２放課後児童クラブ（公募施設）

《NPO 法人 Childcare support ぐんまによる説明》

【質疑】

Ｑ１：IT などを駆使していて素晴らしい。保護者からの２４時間メッセージの受信はどのような運用か。

Ａ１：保護者全員にアプリを入れていただき、休みの連絡や子どもの相談を受けている。

Ｑ２：良質な支援員の確保について問題意識を持っており、確保は難しいと感じるが、確保策や定着策などの具体的な考えや取り組みは。

Ａ２：前職の関係で子どもに対する経験のある方で定年した方などに声掛けを行っている。職業安定所の方にも通知を出している。

Ｑ３：今後の課題について何かあれば。

Ａ３：子ども同士の付き合い方など。支援員に子どもの動向をよく見てもらうことで仲良くできるように心掛けている。施設内では特にけががないようにしている。

【意見】

・定款が古いようですので、現定款に。

《(5)～(7)　農政部農業政策課による説明》
【質疑】
Ｑ１：資料のその他支出額が高額であるが、用途は何か。
Ａ１：主に商品（農産物・加工品等）の仕入れ費用である。
Ｑ２：道の駅おおたは徐々に評判が改善され、良くなってきていると思う。旅行帰りのお土産購入ニーズもあると聞く。それらを勘案してここ数年は右肩上がりとなっているのか。その中で問題・課題があるか。
Ａ２：新しい道の駅や規模の大きいところが次々とできている。そういったところと規模感は違っても内容で勝負していきたい。他とは違う太田市の魅力発信を行った努力が徐々に実を結んできていると思う。
Ｑ３：近隣の農産物、ヤマトイモ等も人気があるか。
Ａ３：ヤマトイモの売り上げも年々向上している。
Ｑ４：新たな５年間が始まるにあたり、次の５年間の道の駅のイメージ、どのような在り方がよいのか、これまでの質疑と重複するかもしれないが考えがあれば聞かせてもらいたい。
Ａ４：自分の感じたことになるが、道の駅おおたについて、他と比べてマンネリ感を感じた。一方で、平日１４～１５時であったが、時間帯のわりに賑わっていると感じた。他と比べて内容が劣っていることはないと感じた。ただ、１５年経過し、利用者としては他と比べて太田は変化がないとの声が多々あることは承知している。いろいろな方面からリニューアルの要望もあり、刷新化、リニューアルを見せていきたい。内容は本質としては太田市の農産物地産地消、農産物のＰＲの軸をブレずに更に発展していきたいと考えている。詳細は今後十分に検討していきたい。

(5)　道の駅おおた交流センター（公募施設）※申請者３名
《株式会社　ステーシア》
【質疑】
Ｑ１：今の道の駅おおたをみて、どこが欠けていてどのように改善しようと考えているか。
Ａ１：一番感じたのはクリンリネス、サービス業というか、道の駅おおたの看板を背負っているので、清潔感が一つ。五感で感じる魅力を取り入れていきたい。まだいろいろ工夫できるものはあると感じている。
Ｑ２：道の駅でターゲットになるような客層、年齢層。地元向けか、観光客のリピートなのかをもう少し教えていただきたい。
Ａ２：やはり地元の方。地元の道の駅のため、今来ていただいているお客様がまずはメインと思っておりますが、活気という面では旅の目的地にできれば。スタッフ育成に力をいれていける道の駅にしたいと思っている。
Ｑ３：道の駅の運営は今のところ、社として事業にはないということでよいか。
Ａ３：今のところない。
Ｑ４：どの辺りを改善し、力を入れたらよりよくなるか、感じたところを教えていただきたい。
Ａ４：現在の道の駅は駐車場が広い。太田市内でもイベントでキッチンカーを呼び、盛り上がる地域もあると聞いている。道の駅おおたに置いてある食材を活かしてインフルエンサーの方とコミュニケーションを取りながら、発信力のある道の駅を目指していきたい。

Ｑ５：質問の中で道の駅の運営に携わる経験はないとのことであるが、今回手を挙げていただいた動機付けとなったものはどこになるか。
Ａ５：仕事の関係で太田市で多くの付き合いがあった。道の駅は資料を見ていく中で私たちでもう少し良いものを作っていけるのではないかと思い、応募した。
Ｑ６：そのほかに何かやりたいことがあれば。
Ａ６：道の駅おおたに行けば食材調達だけではなく、活用術を教えてもらえるという道の駅を目指したい。これまでの職歴で培った人脈で盛り上げていけると思う。
【意見】
・食べ物が充実している道の駅はたくさんある。飲食業も展開されているため、そういった点は大事だと思う。感じるのは今は活気が不足している印象。飲食も含めクリーンに改善できれば、より多くの人が活用すると思う。魅力が少ないと感じている。
・時々道の駅に行くが、年齢層が高い方が多いと感じる。活気という面では若い方の呼び込みを検討していくのが大事だと思う。

(6)　道の駅おおた交流センター（公募施設）※申請者３名
《特定非営利活動法人 Way To The Dream による説明》
【質疑】
Ｑ１：賑やかで魅力ある道の駅になってもらいたい。２０２４年、２０２５年のアンケートは人数が３９名と少ない、満足度などのいろいろな意見を吸い上げられていないと感じる。その中で今後５年間運営する中で魅力ある道の駅とするためにどのようにしていくのかお聞かせいただきたい。
Ａ１：２４年度版はアンケートが少ない。コロナでアンケートを一時中断していたこともある。２４年度３９件、２５年度８４件と少ないと感じている。少ないながらにお客様との対話に注力しており、吸い上げた意見を役員会に報告、意見を尊重できる形で運営していきたい。これから盛り上げるために、リニューアル構想の考えも聞いている。農業政策課、太田市の方、行政と我々で魅力ある道の駅を運営できる体制を密に地域の方と行政と連携して、道の駅おおたの魅力を発揮できるような体制でリニューアル構想の中で検討していきたい。一番にやるべきことは地場産の野菜の販売、太田市の企業のＰＲ、農業従事者に関するＰＲを次の５年間でやっていきたい。
Ｑ２：賑わっている道の駅は何かの特色があると感じる。太田は今後どこに重点を置いていくか。
Ａ２：今後の展開は他の道の駅の状況を考えていくと太田の道の駅は通過型になってるが、滞在型に変えるべく、チャレンジするならば新たな取り組みを行い、知ってもらう活動を進めていきたい。
【意見】
・明確なこと、例えば飲食店を増やすなど、足りないところを明確にして運営していただければと思う、具体性をもって運営をお願いしたい。
・令和１０年３月に熊谷に道の駅ができる。距離で３０分程度の延長線上、駐車場は２倍以上、子どもの遊び場、フードコート、ドッグランが併設される。今まで運営されてきた中でも脅威のことだと思う。必ずやってくる脅威となるが今後５年間で太田の道の駅が選ば

れる道の駅であるためには具体的な戦略が必要になってくる。色々聞かせていただいて、色々お考えを持たれるというところだが、危惧しているので、是非進めていただき、刷新感のある道の駅にしていただきたい。

⑺　道の駅おおた交流センター（公募施設）※申請者３名

《株式会社イーストによる説明》

【質疑】

Ｑ１：他市の指定管理者施設の事例を知っているが、良い施設となっている。太田にも同じような施設ができたら嬉しいが、費用もかかると思う。今の建物はそのまま使って中でリニューアルなど見せ方を変える形になるのか。皆がわくわくするような、行きたいと思うようなようなものが、今ある古い施設の中でどこまでできるのか。

Ａ１：建物は可能であれば塗装できれいにしたいと思うが、中身のレイアウトや見せ方など経験を活かし、より魅力的な感じにできると思う。太田市は飲食というかワクワク楽しく食べられるイメージを作りつつ常時食を提供できるようにしたい。期待値を上げることはできると思う。近隣というほどでもないかもしれないが道の駅もできる。きちんと競争力を発揮できるようにしたい、他市でリニューアルして人気になった実績もある。そういったことはやっていくつもり。年次計画を実行し、期待値を上げたい。

Ｑ２：資料で道の駅おおたを中心とした経済波及イメージは素晴らしい構想だと思い拝見した。他市の類似施設の管理運営実績が色々あると思うが、通過点ではなく、目的地にするという観点で過去の類似施設で比較的、群馬では川場や海の近くなどアドバンテージはあると思う。工業都市で立地的に同じ道の駅のカテゴリとしてもその辺りの工夫の仕方は違いがあると思う。来場者など、テコ入れして好事例となったものがあれば。

Ａ２：立地は工業都市であっても、そこまで立地が悪いと思っていない。かつ太田市は企業も多く、周辺人口という意味では心配していない。類似事例では農業公園があり、散歩する人がいる程度だった。大幅に利用者を増やすことができた。目的も明確で、中身も食と農。太田市としてはこれだけ食と農が豊かなのにまだブランディングできていないところもある。そのリブランディングすればきちんと集客はできると思っている。道の駅はいろいろなコンテンツを作るようにしている。周辺の空いている土地もあるのでそういったものに変えていき、エリア全体の魅力を上げることが大事だと思う。まずは来ていない人に来てもらう、何回も来てもらう。

Ｑ３：個人的な見方かもしれないが、人気の道の駅は、新鮮な野菜をメインで買い物できる印象が強い。太田市でもそういった工夫がこれから可能かどうか。今は時期的にも野菜が元気がない気がする。

Ａ３：太田市は作目ごとに大きなものはあるが、品目数では少ない点が懸念される。私たちにやらせていただければ、こちら側から生産者にこれが売れている、こういうものを作ったらよいなどの提案ができる。ネットワークもあるため、全国から旬の野菜を取り入れ並べることも検討している。

Ｑ４：会社の運営もかなり計画をしっかりされ、利益を上げられている。魅力ある道の駅にしようと考えておられると思うが、どのくらいまで集客を増やせるか。

Ａ４：今実際に運営しているわけではないが、一般的なお店に例えると昨対５～１０％を目標

とし、毎年つないでいけば５年後には１．５倍まにはできるのではないか。ネガティブな要素ではあるが新しい道の駅ができる、落ち込む時期がでてしまうと思う。

【審査】

・得点、基準点、満点は別紙１のとおり
・全申請者基準点以上。
・３者の申請があった(5)(6)(7)道の駅おおた交流センターについて、株式会社ステーシア４１５点、特定非営利活動法人 Way To The Dream４３０点、株式会社イースト５２０点のため、株式会社イーストを全員賛成により、指定管理者候補者に選定することを適当と認める。
・全員賛成により、(2)～(4)は別紙１の申請者を指定管理者候補者に選定することを適当と認める。

６　その他

・事務局が作成した審査報告書について委員長が確認を行い、委員長から市長に報告する。
・市長へ報告後、報告書の写しを委員へ送付する。

７　閉会（尾島事務局長）

以上をもちまして、令和８年度太田市指定管理者候補者審査委員会を閉会いたします。ありがとうございました。